

知的障害のある生徒の主体的な学びを高める生活単元学習の指導の工夫 — 見方・考え方を働かせる単元計画を通して —

広島県立呉特別支援学校 丸山 峰朗

研究の要約

本研究は、知的障害のある生徒が主体的な学びを高めることにつながる、生活単元学習における指導の工夫について研究したものである。所属校では、生活や学びに即した実際の学習活動である生活単元学習を展開している。しかし、各教科等の見方・考え方の働かせ方が不明確であるため、授業で何を学んだのかが明確になりづらいという課題があり、授業改善が求められている。そこで本研究では、生活単元学習単元作成手順ガイドを活用し、生活単元学習において育成を目指す各教科等の資質・能力を明確にし、学習が充実するよう各教科等の見方・考え方をより働かせることのできる単元計画づくりに取り組んだ。その結果、育成を目指す資質・能力が明確になり、各教科等の見方・考え方を働かせた学習活動の設定ができ、生徒の主体的な学びを高めることにつながった。以上のことから、各教科等の見方・考え方を働かせる生活単元学習の授業改善が、生徒の主体性を高めることに有効であると分かった。

I 主題設定の理由

広島県では「広島版「学びの変革」アクション・プラン」に基づき、各学校で全ての児童生徒の「主体的な学び」（学習者基点の能動的な深い学び）を促す教育活動に取り組んでいる。しかし、全ての教員が「主体的な学び」を促す授業実践ができていない状態にまで至っていないなどが課題として挙げられており⁽¹⁾、引き続き、授業改善に取り組む必要がある。

所属校は知的障害特別支援学校である。生徒の実態は様々であり、その差は大きい。例えば、高等部では単一障害学級と重複障害学級があり、さらに、単一障害学級では企業就労を目指すⅠ類型、福祉就労を目指すⅡ類型とで教育課程が分かれている。生徒は、活動内容を理解できた際には積極的に活動する姿が見られるものの、教員主導による指示待ち等、学習活動へ消極的な様子が見られることもあり、主体的な学びを高めていきたい。

授業改善に当たっては、特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）（平成31年）（以下「総則等編」とする。）に、生徒にとって何ができるようになるか、という育成を目指す資質・能力を指導のねらいとして明確に設定することの重要性が示されており⁽²⁾、将来に向けて必要な資質・能力の育成が求められている。そして、その育成に向けて、各教科等の指導計画作成上の配慮事項として、各教科等の見方・考え方を働かせて学習の充実を図ることが求められている。

知的障害特別支援学校では、効果的な指導の一つとして、各教科等を合わせた指導である生活単元学

習を実践している。その実践について、名古屋恒彦（2022）は、「各教科等を合わせた指導」が、各教科等の「寄せ集め学習」になってはいけない⁽¹⁾と指摘している。

資質・能力の育成に関して、特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（上）（高等部）（平成31年）（以下「高等部教科等編」とする。）には、「各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となる⁽²⁾」と示されている。

所属校が昨年度に行った授業実践交流会では、各教科等の資質・能力を育むための教材・教具を活用することで、児童生徒の目標を達成させることができ、主体的な学びにつながることを示唆された。しかし、併せて生活単元学習においては多種多様な意義のある経験ができるよう計画しているものの、どの教科等の見方・考え方を働かせているかが分かりにくいこと、そのため生徒は授業で何を学んだのか、何を学び得たのかが明確になりづらくなるのが課題として明らかになった。

そこで本研究では、知的障害のある生徒に行う生活単元学習の授業を充実させることで、生徒の主体的な学びを高める指導の工夫について研究を行う。生活単元学習において、育成を目指す各教科等の資質・能力を明確にし、学習が充実するよう各教科等の見方・考え方をより働かせることのできる単元計画づくりに取り組む。

II 研究の基本的な考え方

1 知的障害のある生徒の主体的な学びを高める生活単元学習の指導

(1) 知的障害のある生徒の主体的な学びの姿

広島県では、平成27年度より「広島版「学びの変革」アクション・プラン」に基づき、児童生徒の主体的な学びの推進に取り組んできた。広島県の目指す「学びの変革」では「主体的な学び」への転換、つまり教師基点の学びから学習者基点の学びへ、受動的な学びから能動的な学びへ、浅い学びから深い学びへ、という教育活動を推進している。また学習者基点の学びとは生徒の興味・関心を踏まえた生徒の思いや願い、考えなどを大切にしながら学習活動を組み立てること、能動的な学びとは自ら積極的に取り組むこと、深い学びとは学んだ知識をつなげて新たな知識を生み出すこと等、と示されている⁽³⁾。広島県の主体的な学びについて、図1に示す。

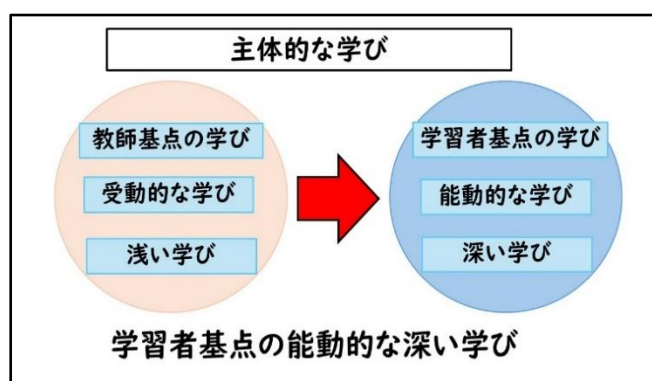


図1 広島県の主体的な学びについて

本研究では、所属校の高等部で教育課程がⅡ類型の生徒を対象に進める。そこで、生徒の実態に即した主体的な学びの姿について、表1に示す。

表1 主体的な学びの姿

学び	具体的な姿
学習者基点の学び	・興味・関心をもって取り組もうとする姿 ・「やりたい」、「やってみたい」という気持ちを表現している姿 ・学習目標達成に向けて取り組んでいる姿
能動的な学び	・積極的に取り組んでいる姿 ・見通しをもって活動している姿
深い学び	・身に付けたことを生かしている姿 ・学んだことを新たな学びにつなげる姿

(2) 知的障害のある生徒の特性と特性に応じた指導

知的障害特別支援学校では、学習指導要領に示されている知的障害特別支援学校の各教科で指導を行い、その目標や内容は学年ではなく段階別に示されている。これは、発達期における知的機能の障害が、同一学年であっても個人差が大きく、学力や学

習状況も異なることから、段階別に内容が示されている。それにより、個々の生徒の実態等に即して、各教科の内容を精選して、効果的な指導が可能となっている⁽⁴⁾。

知的障害のある生徒の学習上の特性として「高等部教科等編」では、学習で得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活場面の中で生かすことが難しい、と示されている。そのため、実際の生活場面に即しながら繰り返して学習することで、必要な知識や技能等を身に付けるための継続的、段階的な指導の重要性が示されている⁽⁵⁾。

また同じく、特性等を踏まえ、実態把握に基づき、見通しのもてる学習環境の整備や、興味・関心、得意な面に着目した教材・教具等の工夫など、一人一人の教育的ニーズに応じた指導等の教育的対応の重要性が示されている⁽⁶⁾。

所属校では、知的障害の特性に配慮し、実際の生活場面に即した学習、繰り返し学習やソーシャルスキル習得に向けた学習や、視覚的支援教材の活用など、学習環境の設定に取り組んでいる。

(3) 生活単元学習とは

生活単元学習とは、知的障害特別支援学校の各教科、道徳科、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う、「各教科等を合わせた指導」の一つである。知的障害のある生徒の特性を踏まえると効果的な学習の一つであり、「高等部教科等編」では「生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実践的・総合的に学習するもの」⁽³⁾と示されている。また、実際の生活上の目標や課題に沿って、指導目標や指導内容が組織されることが重要である、とも示されている⁽⁷⁾。指導する際は、特別支援学校高等部学習指導要領（高等部）

（平成31年）に「必要に応じて各教科、道徳科、特別活動及び自立活動を合わせて指導を行うなど、効果的な指導方法を工夫するものとする。その際、各教科等において育成を目指す資質・能力を明らかにし、各教科等の指導内容間の関連を十分に図るよう配慮するものとする」⁽⁴⁾とあり、合わせた指導を行う際は各教科等の資質・能力を意識した指導内容の検討が必要である。

筑波大学附属久里浜特別支援学校（令和7年）は、各教科等を合わせた指導について「活動を行うことが中心になってしまい、教師が、各教科等で取り扱う内容を十分に意識しないまま授業が行われる可能性も含んでおり、各教科の目標・内容に基づいた指導目標や指導内容、そして、評価が不明確になっているという批判もある。」⁽⁵⁾と言及しているよう

に、授業が活動に偏ってしまう課題がある。特に、実際の生活から発展することの多い生活単元学習においては、各教科等で育成を目指す資質・能力が意識されにくくなってしまう、という難しさがある。

以上のことから、各教科等の資質・能力の育成を意識できる、生活単元学習の指導の工夫を行うことで、知的障害のある生徒の主体的な学びを高めることにつなげていく。

2 見方・考え方を働かせる単元計画

(1) 見方・考え方を働かせるとは

見方・考え方について、「総則等編」には「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められる⁶⁾と示されている。

生活単元学習においても、資質・能力を育成するためには、見方・考え方を働かせることが大切であり、このことで生徒は学びを深めることができる。

加藤宏昭(2025)は見方・考え方に関する注意点として「授業づくりの過程において、教師自身が、当該の授業で児童生徒に、どのような「見方・考え方」を働かせてほしいかということを明確に把握しておくことが必要である。その際、各教科等の「見方・考え方」はそれぞれの教科等の本質とも重なることから、取り扱っている教科等に応じた適切な目標設定を行わないと、その把握が難しくなる⁷⁾と述べており、目標設定とそれに関わる教材や題材選びも重要になってくる。

(2) 生活単元学習における見方・考え方を働かせる単元計画とは

「高等部教科等編」には、生活単元学習の単元の指導計画を作成するに当たっては、各教科等に係る見方・考え方を働かせることのできる内容を含む活動を、生徒が色々な単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画する必要がある⁸⁾と示されている。しかし、単元計画作成の際には、どの教科等の見方・考え方を働かせて欲しいかが分かりにくいこと、そのため生徒が授業で何を学んだのか、何を学び得たのかが明確になりづらくなることから、所属校の課題としても挙げられている。

加藤(2025)は、「児童生徒の障害による困難さを的確に見極めた上で、児童生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせて学習に取り組み、資質・能力を身に付けていくことができるよう、単元や題材

のまとまりを見通して授業づくりを行うことが求められる⁸⁾と述べているように、見方・考え方の働かせ方を明確にした単元計画の作成が必要である。

(3) 生活単元学習単元作成手順ガイドの活用

小野・高田屋外(2022)は経験年数が様々である教師たちにとって「共に授業づくりを進めていくためには、授業をデザインするための共通の枠組みや見方といったものが必要となる⁹⁾と論じている。そこで、本研究では見方・考え方を働かせることができる単元計画を作成するための、共通した生活単元学習単元作成手順ガイド(以下、「手順ガイド」とする。)を活用する。単元を構想する際に、見方・考え方を働かせる計画にするための手順をまとめた手順ガイドを表2に示す。

表2 生活単元学習単元作成手順ガイド

①	年間指導計画で目標を確認する。
②	どの各教科等を合わせているかを確認する。
③	単元を通して生徒に身に付けさせたいことを確認する。
④	単元で取り扱う各教科等とそれぞれの段階、内容、育成を目指す資質・能力を確認する。
⑤	単元の目標に関連した既習事項について各教科等ごとに確認する。
⑥	育成を目指す資質・能力を踏まえ、各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面を考える。
⑦	学習場面を基に、単元を通した学習の流れを設定する。
⑧	見方・考え方を働かせるために必要な手立てを考える。

手順ガイドの活用によって各教科等で育成を目指す資質・能力が明確になり、それに基づいた単元構想をしやすくなる。その上で、各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面や単元を通した学習の流れ(導入・展開・終末)を考えること、見方・考え方を働かせるために必要な手立てを検討することができる。その結果、生徒の主体的な学びを高めることのできる生活単元学習の指導につながると考えられる。

この手順ガイドに沿って、単元を構想しやすいように、手掛かりとして手順ガイドに記載した生活単元学習単元構想シート(以下、「構想シート」とする。)を、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の単元計画シートと、筑波大学附属久里浜特別支援学校の単元構想シートを参考に、作成した(図2)。

表面は、手順ガイド①から⑧に沿って、合わせている教科等について確認できるようにした。裏面

は、各教科等における見方・考え方一覧を記載し、確認できるようにした。(別添参照)

2	生徒の主体的な学びが高まったか。	行動観察 教師へ聞き取り
---	------------------	-----------------

生活単元学習単元構想シート（記入例）										
① 単元名	① 単元の時数									
① 単元の目標	年間指導計画から引用しましょう！		② 合わせた各教科等	年間指導計画を参考に、この単元で取り組む各教科等を記入しましょう！						
③ 単元を通して育まれる資質・能力	三つの柱	育てたい資質・能力								
	知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	生徒に身に付けさせたいことを、単元の目標を基に記入しましょう！								
	教科等	取り扱う各教科等の段階、内容、育成を目指す資質・能力								
④ 合わせた各教科等	この単元で取り扱う各教科等とその段階、内容について、学習指導要領を基に選んで記入しましょう！									
⑤ 既習事項	単元の目標に関連した既習事項について、各教科等ごとに分ける範囲で記入しましょう！									
☆上記で記入した資質・能力を育成するためには、この単元でどういった学習活動にすれば見方・考え方を働かせられるでしょうか？記入してみましょう！										
⑦ 単元の導入	学習活動 これまでの経験や学びを基に、この単元の目標につながるポイントを見逃さず学習活動を設定しましょう！	各教科等	⑥ 見方・考え方を働かせる学習場面	⑧ 支援の手立て <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">導入</th> <th style="width: 33%;">展開</th> <th style="width: 33%;">まとめ</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> ☐口頭 ☐動画・視覚 ☐ワークシート ☐絵カード ☐モデリング </td> <td style="padding: 5px;"> ☐活動 ☐視覚支援 ☐ワークシート ☐協働作業 ☐表情 </td> <td style="padding: 5px;"> ☐口頭 ☐身振り ☐カード ☐表情 </td> </tr> </table>	導入	展開	まとめ	☐ 口頭 ☐ 動画・視覚 ☐ ワークシート ☐ 絵カード ☐ モデリング	☐ 活動 ☐ 視覚支援 ☐ ワークシート ☐ 協働作業 ☐ 表情	☐ 口頭 ☐ 身振り ☐ カード ☐ 表情
導入	展開	まとめ								
☐ 口頭 ☐ 動画・視覚 ☐ ワークシート ☐ 絵カード ☐ モデリング	☐ 活動 ☐ 視覚支援 ☐ ワークシート ☐ 協働作業 ☐ 表情	☐ 口頭 ☐ 身振り ☐ カード ☐ 表情								
⑦ 単元の展開	学習活動 学習の流れに沿ったながら、実情的な場面や生徒に即した学習活動を設定しましょう！	各教科等	⑥ 見方・考え方を働かせる学習場面	⑧ 支援の手立て <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">導入</th> <th style="width: 33%;">展開</th> <th style="width: 33%;">まとめ</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> ☐口頭 ☐動画・視覚 ☐ワークシート ☐絵カード ☐モデリング </td> <td style="padding: 5px;"> ☐活動 ☐視覚支援 ☐ワークシート ☐協働作業 ☐表情 </td> <td style="padding: 5px;"> ☐口頭 ☐身振り ☐カード ☐表情 </td> </tr> </table>	導入	展開	まとめ	☐ 口頭 ☐ 動画・視覚 ☐ ワークシート ☐ 絵カード ☐ モデリング	☐ 活動 ☐ 視覚支援 ☐ ワークシート ☐ 協働作業 ☐ 表情	☐ 口頭 ☐ 身振り ☐ カード ☐ 表情
導入	展開	まとめ								
☐ 口頭 ☐ 動画・視覚 ☐ ワークシート ☐ 絵カード ☐ モデリング	☐ 活動 ☐ 視覚支援 ☐ ワークシート ☐ 協働作業 ☐ 表情	☐ 口頭 ☐ 身振り ☐ カード ☐ 表情								
⑦ 単元の終末	学習活動 この単元で学んだことを振り返り、身に付けたい力を発揮し、活かすための学習活動を設定しましょう！	各教科等	⑥ 見方・考え方を働かせる学習場面	⑧ 支援の手立て <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">導入</th> <th style="width: 33%;">展開</th> <th style="width: 33%;">まとめ</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> ☐口頭 ☐動画・視覚 ☐ワークシート ☐絵カード ☐モデリング </td> <td style="padding: 5px;"> ☐活動 ☐視覚支援 ☐ワークシート ☐協働作業 ☐表情 </td> <td style="padding: 5px;"> ☐口頭 ☐身振り ☐カード ☐表情 </td> </tr> </table>	導入	展開	まとめ	☐ 口頭 ☐ 動画・視覚 ☐ ワークシート ☐ 絵カード ☐ モデリング	☐ 活動 ☐ 視覚支援 ☐ ワークシート ☐ 協働作業 ☐ 表情	☐ 口頭 ☐ 身振り ☐ カード ☐ 表情
導入	展開	まとめ								
☐ 口頭 ☐ 動画・視覚 ☐ ワークシート ☐ 絵カード ☐ モデリング	☐ 活動 ☐ 視覚支援 ☐ ワークシート ☐ 協働作業 ☐ 表情	☐ 口頭 ☐ 身振り ☐ カード ☐ 表情								

参考：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所：単元計画シート(ver.1.2a)

図2 生活単元学習單元構想シート表面

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

各教科等の見方・考え方を働かせるため、手順ガイドを活用した単元計画の立案及び授業実践を行えば、知的障害のある生徒の主体的な学びを高めることができるだろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表3に示す。

表3 検証の視点と方法

	検証の視点	検証の方法
1	手順ガイドを活用することで、各教科等の見方・考え方を働かせた単元計画の立案、授業実践ができたか。	行動観察 単元計画

(1) 行動觀察

本研究では、授業実践を通じて、学習場面において生徒が各教科等の見方・考え方を働かせていたか観察する。それとともに、表1に示した生徒の主体的な学びの姿を参考に、授業においてどのような主体的な姿が見られたのか、また主体的な学びが高まったのかについて検証する。

(2) 单元計画

単元計画作成の段階において、手順ガイドを活用することで、担任等は育成を目指す資質・能力を意識しながら、各教科等の見方・考え方を効果的に働かせる単元計画を作成できたかを、生徒の姿と合わせて検証する。

(3) 教師への聞き取り

授業実践を行う学級の担任を対象に、聞き取り調査を実施する。調査では、手順ガイドを活用して作成された単元計画を基に、資質・能力を明確にし、各教科等の見方・考え方を働かせることで、生徒の主体的な学びが高まったのか検証することを目的とする。

○対象：対象学級担任、副担任

○実施日：手順ガイド作成時、授業後

IV 研究授業について

1 研究授業の概要

○期 間 令和7年7月4日～令和7年7月9日

○対 象 所属校高等部第1学年3組 II類型

生徒6名、担任等4名

○場 所 高等部第1学年3組教室

○单元名 家庭での役割

○單元目標

- ・家庭生活において、家族の人々との協力が大切であることに気付くことができる。

2 単元計画作成

本単元の計画立案に当たっては、手順ガイドの各項目を参照しながら構想を進めた。

手順ガイドを基に、作成された構想シートを図3に示す。

構想シートを作成する中で、本単元の目標から単元を通して育成を目指す資質・能力、各教科等の段階、既習事項の確認を行った。それらを踏まえ、各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面に基に、単元を通じた学習の流れを設定した。本単元は全3時間の設定であったため、単元の導入・展開・終末

場面を、そのまま本単元の指導計画の学習内容とした。構想シートに整理をした上で、実際の生活上の目標や課題に沿った目標・評価を設定した。

生活単元学習単元構想シート					
①単元名	家庭での役割	①単元の時数	3		
①単元の目標	・家庭生活において、家族の人々との協力が大切であることに気付くことができる。(家ⅠA)		②合わせた各教科等	家庭、国語、数学 社会、道徳	
③単元を通して育まれる資質・能力	三つの柱		育てたい資質・能力		
	知識及び技能		家事の種類ややり方について知ることができる。		
	思考力、判断力、表現力等		家庭生活での役割について、自ら気付いたり考えたりすることができる。		
	学びに向かう力、人間性等		家庭や学校での役割を、協力し合いながら果たすことができる。		
	教科等		取り扱う各教科等の段階、内容、育成を目指す資質・能力		
④合わせた各教科等	高等部・家庭	1段階 A 家族・家庭生活 ア 自分の成長と家族 (F) 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと(知識及び技能)			
	高等部・国語	1段階 ア 言葉の特質や使い分け (1) 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、語や文章の平で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること(知識及び技能)			
	高等部・数学	1段階 数と計算 ②数のまとまり(有数)し、大小の数の大きさの比べ方や表し方を数言明に読めることともに、それらを日常生活に生かすこと(思考力、判断力、表現力等)			
	高等部・社会	1段階 ア 社会参加と暮らし ②地域の人々や互いに協力することの大切さを理解し、自分の役割や責任を果たすための知識や技能を身に付けること(知識及び技能)			
	⑤既習事項	家庭…家庭で自分の仕事をもつ生活はほほいさないが、頼まれたことには取り組もうとする時もある。授業では、掃除の時間に雑巾を洗う、干す、畳むなど取り組んでいる。国語…家事で使う言葉の中で「洗う」など、なじみのあるものであればイメージを持つことができるようになりつつある。数学…簡単な計算ができる生徒もいれば、10までの数値を理解できる生徒もいる。社会…学校内で自分の係を意識し、自分から取り組めるようになってきている。道徳…クラスメイトと協力しながら学習へ取り組もうとする経験を重ねている。			
☆上記で記入した資質・能力を育成するためには、この単元でどういった学習活動にすれば見方・考え方を働かせられるでしょうか？記入してみましょう！					
⑦単元の導入	学習活動	各教科等	⑥見方・考え方を働かせる学習場面		⑧支援の手立て
	家庭での自分の役割について調べよう	家庭、国語、社会	・一日の生活において、どのような家事があるか確認できる学習場面。 ・家事に関する言葉を使うことで、その意味について理解する学習場面。 ・家庭の中で、自分の役割について考えたり比べたりできる学習場面。		導入 展開 まとめ □口頭 □活動 □動画・視覚支援 □ワークシート □絵カード □協働作業 □ワークシート
⑦単元の展開	学習活動	各教科等	⑥見方・考え方を働かせる学習場面		⑧支援の手立て
	自分の得意な家事を探してみよう	家庭、国語、社会、数学	・家事を実践する中で、その手順を理解しながら取り組める学習場面。 ・家事に関する言葉を使うことで、その意味について理解する学習場面。 ・家庭で自分ができる役割について、選んだり決めたりする学習場面。 ・決まった数値を、正しく数えたり測ったりする学習場面。		導入 展開 まとめ □口頭 □活動 □動画・視覚支援 □ワークシート □絵カード □協働作業 □自己振り返表
⑦単元の終末	学習活動	各教科等	⑥見方・考え方を働かせる学習場面		⑧支援の手立て
	家事を手伝って家族を笑顔にしよう！	家庭、道徳	・家事に協力して取り組む中で、家庭での自分の役割を理解できる学習場面。 ・家庭での役割を果たす中で、友だちや家族の気持ちを考えられる学習場面。		導入 展開 まとめ □口頭 □活動 □動画・視覚支援 □ワークシート □絵カード □協働作業 □自己振り返表
参考：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所：単元計画シート(ver.1.2a)					

図 3 本単元の生活単元学習単元構想シート

これらを活用して作成した本単元の指導計画を、表 4 に示す。

表 4 本単元の指導計画（所属校の学習指導案様式を使用）

時	学習内容	付けたい力との関連			本時の目標
		知	思	主	
1	・家庭での仕事について調べよう	◎	○		・家庭では、どんな家事があるのかを知ることができる。 ・家事を体験する中で、その手順に沿って取り組むことができる。

2	・自分の得意な家事を探してみよう	○	◎		・家事に関する言葉を理解し、手順に沿って正しく行うことができる。 ・家庭で自分ができる役割について、選んだり決めたりすることができる。
3	・家事を手伝って家族を笑顔にしよう		○	◎	・自分の役割を理解して、家事に取り組むことができる。 ・家事など家での役割を果たす中で、友だちや家族の気持ちを考えようとする。

3 指導の実際

手順ガイドを基に、授業実践において各教科等の見方・考え方を働かせることを想定した指導を行った。本単元で核となる家庭科を中心に、取り扱う各教科等の見方・考え方を計画した。それを基に、各教科等の見方・考え方を働かせることのできる具体的な学習場面、及び支援の手立てを設定した。表 5 には、構想シートに記載した⑥見方・考え方を働かせる学習場面と支援の手立ての詳細を示す。

表 5 各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面と支援の手立て

各教科等	各教科等の見方・考え方	見方・考え方を働かせる学習場面	支援の手立て
家庭科	家族や、家庭に係る生活事象を家事とし、協力・協働の視点から捉え、より良い生活を営むために工夫すること	①家族と協力して生活を送れるよう、一日の生活の流れの中で、家族が担っている役割や仕事に気付くことのできる学習場面 ②家庭生活での協力・協働を意識できるよう、家庭において一人のできる家事「皿拭き」、「洗濯物たたみ」、「机拭き」、「箸並べ」を体験する学習場面	・一日の生活の流れを一覧表にし、家庭においてどのような家事が行われているかについて、視覚的に提示をした。 ・生徒がイメージしやすいように、家事の絵カードを準備した。 ・自分でできそうな、実際の家庭においても実現可能な家事を精選し、提案した。 ・生徒の実態に応じて、無理なく取り組める活動量を調整した。
国語科	家事の名称や動き等の言葉を、意味や使い方に着目して捉え、言葉への自覚を高めること	③家事「洗濯物たたみ」、「箸並べ」の作業を通して、言葉の意味や使い方を理解し、言葉と言葉を結び付けるための学習場面	・家事の手順カードに、家事に関する言葉を記載した。 ・家事で使われる頻度の高い言葉を、積極的に触れることのできる機会を設定した。
数学科	数量の関係性に着目する視点から捉え、家事を体験する中で必要な数を活用すること	④家事「箸並べ」の作業を通して、数量の関係性に着目しながら、家族や友だちの数に応じた数の準備をする学習場面	・友だちの人数を視覚的に理解して正確に把握できるように、写真マグネットを使った。 ・箸一膳の数と本数の違いに注目しにくい生徒には、箸を数えやすいよう割り箸を用いた。
社会科	社会的事象を社会参加とし、その意味や意義を考えると捉え、家庭生活	⑤家庭において、自分が取り組めるような役割を考えて、取り組んだ家事の中から比較をしなが	・自分の家事実践が、学習活動後に振り返られるように、動画とプロジェクターを使用することで視覚的な理解を促した。

	や学校生活において自分の役割を考えること	ら、決定することのできる学習場面	・取り組んだ家事実践の中から比較した後、自分で選択ができるように、家事カードを使って二者択一できる活動を設定した。
特別の教科道徳	「道徳的諸価値」を基にした視点から捉え、他者の評価を受けながら自分の役割や、家族や友だちとの協力について考えること	⑥家事の役割を果たすことで、他者からの評価や反応を受けながら、自分の行動により得られる気持ちを考えることのできる学習場面	・家族がどのような気持ちになるのかについて、視覚的に理解しやすいように、気持ちを表す絵カードを用意した。 ・気持ちを選択しやすいよう、対照となる表情を表す、二つの絵カードを準備した。
		⑦家事を行うことによって、家族や友だちからどのような言葉を掛けられるかを考えることで、自分の役割や行動について振り返ることのできる学習場面	・家族や友だちから掛けられる言葉について、生徒がイメージしやすいように、理解しやすい内容の話型カードを用意した。 ・生徒が理解しやすい話型カードとなるよう、内容を表すイラストを添付し、言葉を平仮名にしたものを準備した。

今回の授業実践においては、数学科における見方・考え方を働かせる学習場面の設定に困難さを感じることがあった。生徒の実態を踏まえた時、数量の関係性に着目して必要数を把握する学習場面は設定できたものの、それに対して根拠を基に筋道を立てて考える学習場面の設定までには至らなかった。

V 研究授業の分析と考察

1 単元計画と実践

手順ガイドを活用して作成した単元計画に基づき、授業実践の分析を行った。授業実践において、各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面（表5の番号を参照）における、生徒の顕著な姿について、表6に示す。

表6 各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面と生徒の姿

学習場面	生徒の姿
①	・一日の生活の流れに沿って、普段の自分の生活についてつぶやきながら考えた後、絵カードを貼っていた。(生徒B) ・一日の生活の流れに沿って、前後の絵や文字の表示を見比べながら、絵カードを貼っていた。(生徒F)
②	・家事の方法について、手順カードを確認しながら、手順通りに一人で取り組もうとしていた。(生徒A) ・手順カードを見たり教員の助言を受けたりしながら、「箸並べ」「洗濯物たたみ」を丁寧に取り組んでいた。(生徒C)
③	・家事の実践では、教師からの「拭き残しがあるよ。」という言葉に対して弁当箱を拭き直していた。(生徒B) ・「洗濯物たたみ」「箸並べ」では、「たたむ」「揃える」「並べる」などの言葉を、動作と合わせて言いながら行っていた。(生徒C)
④	・「箸並べ」の実践では、自分で必要な数である友だちの人数を判断し、その分だけ箸を取り出し並べていた。(生徒D)

	・「箸並べ」の実践では、教師が用意した写真マグネットを本人が最初に数えて確認した上で、その数に応じて数唱しながら並べていた。(生徒F)
⑤	・自分の実践動画を確認したり思い出したりした後、自分が得意で家庭でも取り組みそうな方を考えて選んでいた。(生徒A) ・自分の家事実践を動画で確認した後に、二つの家事カードを選択する場面において、何度か選ばせたが同じ方を選んでいった。(生徒E)
⑥	・家事の実践後、「Bさんのお母さんが家事をした時にどんな気持ちになるのかな。」と具体的に問いかけることで、その場面に適した気持ちを表す絵カードを参考に「うれしい。」と、言葉で発表していた。(生徒B) ・家事の実践後、「Fさんが家事をしたら家族はどんな気持ちになるのかな。」と問いかけ、二種類の絵カードを提示すると、「嬉しい」気持ちを表す方を選んでいった。(生徒F)
⑦	・家事の実践後、「Dさんが家事をしたら、お母さんから何と言われるかな。」と具体的に問いかけることに対して、話型カードを参考に考えた後「うれしかったよ。」と、言葉で発表していた。(生徒D) ・家事の実践後、「Cさんが家事をしたら、家族から何と言われるかな。」と問いかけ、言葉カードを音読した後に提示すると、三者択一で適切なカードを選んでいった。また、カードの順番を変えて提示しても、同じものを選んでいった。(生徒C)

以上のことから、単元を通して生徒が各教科等の見方・考え方を働かせる姿が確認できた。また授業実践では、見方・考え方を働かせやすくする支援として、生徒が見通しをもって学習に取り組むやすい視覚的支援を取り入れた。生徒が学習に取り組む中で、肯定的な言葉かけや学習評価を意図的に行うなどにより、生徒が自信をもって積極的に取り組む姿も多く見られた。

一方で、今回の授業実践では教科によっては、見方・考え方の中でも見方（視点）に生徒が着目できるような学習場面を設定することはできたものの、考え方を働かせる場面の設定が難しいこともあった。

2 主体的な学びの高まり

(1) 行動観察による分析

授業実践において、生徒が各教科等の見方・考え方を働かせることで主体的な学びが高まったかどうか、具体的な生徒の姿と表1の主体的な学びの姿と合わせて分析を行った。生徒の顕著な姿を表7に示す。

表7 主体的な学びと生徒の姿

	主体的な学び	授業前の姿	授業での姿
学習者基 点の学 び	・興味・関心をもって取り組もうとする姿	・興味・関心の高いことには一定時間集中するものの、そうでないものに対しては授業に集中しにくくなる。(生徒B)	・家庭での役割や家事に対して興味・関心をもち、自分の家庭生活を思い出しながら学習活動に取り組んでいた。

	・「やりたい」、「やってみよう」という気持ちを表現している姿	・学習活動に対して、支援を受けながらではあるが、自ら進めようとするものもある。一方で、指示待ちになってしまうことが多い。(生徒C)	・前時に行った動画を視聴することによって、家事の内容を思い出しながら、自分が行いたい家事を選んで取り組んでいた。
	・学習目標達成に向けて取り組んでいる姿	・学習活動に対して気持ちが向きづらく、取り組みそうなどに対して、支援を受けながら少しずつ行っている。(生徒E)	・手順カードや教員からの支援によって、自分から家事に関する学習活動に向かい、取り組もうとしていた。
能動的な学び	・積極的に取り組んでいる姿	・見通しがもてる学習に対しては、自分から学習を進めようとするものもあるものの、消極的になってしまうことがある。(生徒F)	・家事の実践では手順カードを確認しつつ、自分から家事に関する言葉を意識して使いながら作業に取り組んでいた。
	・見通しをもって活動している姿	・学習活動をよく理解しており、自分で考え行動することもあるが指示待ちになってしまいがちで、状況によっては全く動かなくなることもある。(生徒D)	・他の生徒が指導を受けている様子を見て手順を確認し、自ら箸の向きを正しく直すなど、自発的な行動を取りながら学習活動を行っていた。
深い学び	・身に付けたことを生かしている姿	・気持ちが安定している際には、既習事項を思い出しながら取り組もうとすることもある。(生徒B)	・前時に学んだ作業の手順を思い出しながら、学んだ手順通りに家事を行おうとしていた。
	・学んだことを新たな学びにつなげる姿	・学習活動に対して自分から取り組もうとするものもあるが、正しいやり方が理解しにくい場面では、自分なりの方法で進めてしまうことがある。(生徒A)	・作業学習Aの掃除場面では、机拭きを手順カードにある方法通りに正しく行おうとしていた。 (授業場面以外)

以上の行動観察から、対象学級において各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面を通して、生徒の主体的な学びの姿が見られた。特に、生活や経験に根ざした学習活動を通じて、生徒は自己の役割や他者との関わりを意識する力を育み、より深い理解と能動的な姿勢を見せるようになった。しかし、生活経験の差異によって、理解や関心に影響を及ぼす傾向も見られた。例えば、家事に触れる機会の多い家庭環境にある生徒は、家事に関する学習への理解や関心が高い。一方で、家庭の状況によって家事に関わる経験が少ない生徒は、学習への意欲や関心が高まりにくく、学んだことを新たな学びへと発展させる際に、難しさが見られることもあった。ただし、各教科等の見方・考え方を働かせることのできる学習場面を設定する際に、生徒それぞれの実態に即した見方・考え方を配慮した上で、学習場面を設定する必要があることも分かった。

主体的な学びの姿に関しても、今回の授業実践においては「深い学び」の姿について、授業で顕著に引き出すことができたとは言い切れなかった。

(2) 担任等への聞き取り調査

授業実践終了後、担任等への聞き取り調査を実施し、生徒の主体的な学びに関する考察及び指導上の改善点を整理した内容を表8に示す。

表8 担任等からの聞き取り調査の内容

項目	回答
各教科等の見方・考え方を働かせる単元計画作成について	- 各教科等の見方・考え方を働かせる学習活動について、普段だとイメージしづらいため、構想シートを使った例示があると考えやすくなった。各教科等の見方・考え方を働かせる授業の構想によって、生徒の主体的な学びが高められることも分かった。 - 家事の役割や、自分が家事を担うことが周囲から感謝されるという経験を通じて、以前に比べて生徒が家事の意義を実感できたように感じられた。
主体的な学びの姿について	- 家事活動で手順書を提示することで、普段よりも正確に作業を進めようとする姿が見られたことから、視覚的支援の活用は生徒の主体性や自立的な学びを促進する上で有効と感じられた。 - 生徒は各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面において、目標に向けて取り組む様子が比較的、顕著に見られた。 - 授業を受けて、生徒が本単元で取り組んだ家事に関すること（机拭きを丁寧に行えるようになった、洗濯物たたみで身の回りをきれいにたためるようになった等）で、主体的な学びが高まったように感じられた。
手順ガイドの活用	手順ガイドの活用により、所属校における年間指導計画との照合を通じて、単元目標や学習内容、単元の流れへの理解を深めるきっかけとなった。

以上の聞き取り調査から、各教科等の見方・考え方を働かせることにより、生徒の主体的な学びを高めることのできる学習活動の必要性について確認することができた。また、授業実践時には、各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面を意識した言葉かけや支援に関して、教師の指導に変容が見られた。授業後には「生徒が落ち着いて学習に取り組んでいることに驚いた。」といった話が出るなど、授業実践を通じて生徒、教員の双方に一定の変容が見られたと捉えることができる。

3 考察

これまでの授業実践及び分析結果から、各教科等における見方・考え方を働かせた単元計画を作成することで、生徒が主体的な学びを高めることのできる授業づくりに、一定の成果が見られることが分かった。また、生徒の見取りを通した適切な指導や支援が可能になることも示された。さらに、授業者間で見方・考え方を働かせる学習活動について、共有することが確認された。対象学級においても、各教科等の見方・考え方を働かせる学習活動を設定することで、生徒の主体的な学びを高めることができた。それは、手順ガイドを活用することで、生徒が

各教科等の見方・考え方を働かせる学習場面を具体的に設定することができたからだと考える。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

- 生活単元学習において、各教科等の見方・考え方をより働かせる方法を検討した結果、単元計画の作成段階で手順ガイドを活用することで、授業者が具体的な学習活動を構想しやすくなることが明らかになった。これによって、育成すべき資質・能力が単元全体を通して可視化され、生徒の主体的な学びを高められる授業実践が可能となることが示された。
- 単元計画作成段階時に手順ガイドを活用することで、授業者は各教科等の見方・考え方を意識した授業設計を行いやすくなった。その結果、資質・能力の育成に向けた学習に向けて、具体的な学習場面を構想した単元計画を立案しやすくなった。また、これによって授業者間で目標に向けた支援の方向性を共有し、適切な支援を行えるようになるなど、一定の成果が得られた。

2 研究の課題

- 本研究での授業実践のみでは、生徒の主体的な学びを高められたかという妥当性が検証しきれずとまでは言い切れない。また、授業中に主体的な学びの姿が明確に発揮されたとは言い切れなかったことも挙げられる。
- 構想シートの活用は、稿者自身の授業実践に限定されていたため、ツールの有効性や汎用性については他の授業者による実践を通じた検証が必要である。多様な生徒の実態に応じた活用事例を収集・分析し、実践的な知見の般化を図ることが求められる。また、構想シートの作成には時間的・作業的・内容的な負担が伴うことが明らかになった。特に、どの教科を組み合わせるか、各教科等の段階や内容、育成を目指す資質・能力など意識しづらい項目については、作成に多くの労力を要するとの指摘があった。

3 成果と課題を踏まえた今後の方向性

- 手順ガイド及び構想シートを活用した授業実践の事例を更に収集・蓄積し、得られた知見を教育現場で共有することでツールの活用を推進する。
- 構想シートを簡易化し、教員の負担削減と活用頻度の向上を目指す。特に経験の浅い教員も扱いやすいよう、構成要素の精選とフォーマットの改良により、実用性を高められるよう検討する。

- 両ツールを他教科にも応用できる可能性を検討し、教育活動全般における計画・実践支援ツールとしての汎用性を高める。これにより、カリキュラム・マネジメント推進に資する活用を目指す。

【注】

- (1) 広島県教育委員会（令和6年）：「広島県教育資料第1章「学びの変革」の推進」p.1-1-1に詳しい。
(https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/shiryou_u3.html)（最終アクセス令和7年6月19日）
- (2) 文部科学省（平成31年a）：「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」ジエース教育新社pp.56-57に詳しい。
- (3) 広島県教育委員会（平成31年）：「広島県教育資料第2章「主体的な学び」の創造」p.113に詳しい。
- (4) 文部科学省（平成31年b）：「特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（上）（高等部）」ジエース教育新社p.27に詳しい。
- (5) 文部科学省（平成31年b）：前掲書p.29に詳しい。
- (6) 文部科学省（平成31年b）：前掲書p.30に詳しい。
- (7) 文部科学省（平成31年b）：前掲書p.34に詳しい。
- (8) 文部科学省（平成31年b）：前掲書p.35に詳しい。

【引用文献】

- 1) 名古屋恒彦（2022）：「各教科との関連性を意識した生活単元学習の授業づくりと学習評価の在り方」p.11
- 2) 文部科学省（平成31年a）：「特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（上）（高等部）」ジエース教育新社p.33
- 3) 文部科学省（平成31年a）：前掲書p.34
- 4) 文部科学省（平成31年）：「特別支援学校高等部学習指導要領」海文堂出版p.266
- 5) 筑波大学附属久里浜特別支援学校（令和7年）：「知的障害を伴う自閉症児に対する各教科等を合わせた指導の改善—プロセスチェック手順ガイドを活用した指導目標の設定と評価の改善—」p.1
- 6) 文部科学省（平成31年）：「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」ジエース教育新社p.7
- 7) 加藤宏昭（2025）：「総説 資質・能力を育成するための授業づくり—各教科等の「見方・考え方」を働かせる—」「特別支援教育」No.97東洋館出版社p.6
- 8) 加藤宏昭（2025）：前掲書p.4
- 9) 小野直子・高田屋陽子・櫻田佳枝・武田篤（2022）：「特別支援学校における自閉症の主体性を育む授業づくりの検討」「秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要第44号」p.74

【参考文献】

- 筑波大学附属久里浜特別支援学校：「令和6年度 自閉症教育実践研究協議会 単元構想シート」
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所：知的障害教育における学習評価に関する情報普及ページ
(https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability_list/intellectual/learningevaluation) 単元計画シート(ver.1.2a)（最終アクセス令和7年6月19日）